みの MINO EDO
東京⇌笠原情報誌 MAIL版

発行：多治見市美濃焼タイル振興協議会
TEL 0572-43-2141
発信：多治見市・笠原町東京情報局
tilesea.ms@gmail.com

＊協議会のウェブサイトでも公開しています。

NO 213
2019.8.29

多治見市 モザイクタイルミュージアム 特別展 工場賛歌 成型編

9月1日まで！

多治見市モザイクタイルミュージアム（岐阜県多治見市）では、タイルの成型工程に焦点をあてた特別展を開催中（9月1日（日）まで）。展示に関連し、タイル工場の見学会やタイル製作のワークショップも行われた。

油圧プレス用金型（内コマ）（現代）＊1

タイル（アセティオヘキサゴン）＊2

乾式成形

粉状の原料を型に入れ、プレスして成形。水分量を減らしておくことで、焼成後の変形を抑えられる。現在の笠原町のモザイクタイルは、多くがこの製法で作られている。

ハンドプレス機＊5
乾式成形で初期に使われたプレス機。大正時代後半に登場したフリクションプレスを経て、昭和30年代に油圧プレス成形機が登場、タイルの生産量が大幅に増加した。

手動プレス用金型（クリンカータイル用上下一式）（大正時代）＊3
クリンカータイル（大正時代）＊4

＊1 所蔵：谷口製陶所
＊2 製造、所蔵：谷口製陶所
＊3 所蔵：丸岩製陶所
＊4 製造、所蔵：丸岩製陶所
＊5 所蔵：モザイクタイルミュージアム

多種多様なタイル型が並ぶ

今回の特別展は、2016年の「原料編」、2017年の「釉薬編」に続く第3弾で、タイルの成形に焦点を当てた。展示会場では、「湿式成形」と「乾式成形」の、2つの成形法を紹介している。

おもな展示品はタイルの型。木型、土型、石膏型、金型など、素材も多様なら、もちろん形も多様。「湿式成形」の型は、一見して使い方がわからない型もある。真鍮製の「真空土練機用口金」がその一つで、口金からタイルが2枚合わさった形で出てくるという仕組み。ミュージアムのルーフタイル（瓦）がこの製法で作られることを知った。

現在のタイル製造で多くを占める「乾式成形」の展示では、粉状の原料を押し固めるための手動式のプレス機が存在感を放つ。実際に手動プレス機を使ったことのある年配の来館者が、使用していた当時のことを語ってくれたこともあったという。

派手さはないが、丁寧に見ていくことで理解が深まり、面白みが増していく。熱心に質問をしてくる人も多いという。タイル成形の機械の模型もあり、科学技術博物館のような楽しさもある展示となった。

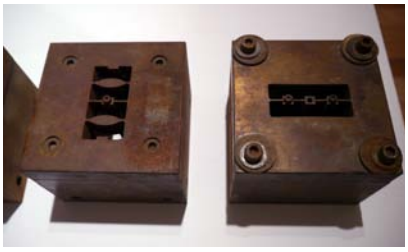
乾式成形による
タイル成形工程を学べる模型

湿式成形

タイル製造では、現在は用いられることが少ない成形法。水分を含んだ原料を使用して形を作る。

押出成形

口金から押し出してカットする。



真空土練機用口金
（現代）*6

真空土練機用口金
（モザイクタイルミュージアムルーフタイル）
（平成28年）*7

真空土練機は、昭和30年代から使用。水分を含む土により、やきものらしい風合いを残したタイルが作れるため、現在でも使用している工場がある。

ミュージアムのルーフタイル

モザイクタイルミュージアム
ルーフタイル（平成28年）*8
タイルが2枚合わさった形。

手起こし成形

型に粘土を押し付ける。

石膏型（松文レリーフタイル）
（昭和10年頃）*9

左・型おこし用石膏型（不明）*10
右・役物用木型（昭和37年頃）*11

鋳込成型

型に泥漿（でいしょう）を流し込む。

鋳込み用石膏型（昭和60年頃）*12

*6 所蔵：丸仙化学工業所
*7 製造、所蔵：国代耐火工業所
*8 製造：元旦ビューティ工業、
所蔵：国代耐火工業所
*9 製造：錦窯山内タイル製陶所、
所蔵：モザイクタイルミュージアム
*10 製造：おそらく桝文製陶所、
所蔵：モザイクタイルミュージアム
*11 製造：水野建具店（桝文製陶所で使用）、
所蔵：モザイクタイルミュージアム
*12 製造：桝文製陶所、
所蔵：モザイクタイルミュージアム

ワークショップ

小さなモザイクタイルをつくろう！

7月13日（土）、タイルの絵付けワークショップが開催された。成形してあるタイルに、顔料で花のような模様をつけていく。子どもから大人まで10名が参加した。タイルは焼成後、各自に送付された。

完成見本

ピアスやイヤリングにしてくれました。

講師は、七窯社代表・鈴木耕二さん、木曽与萌さん。

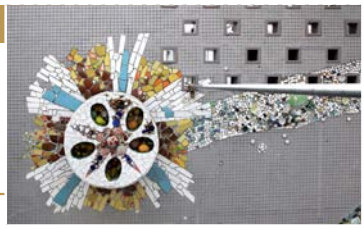
プレス成形の仕組みを疑似体験。原料となる粉を入れ、上から力を加えて、押し固める。

タイルの外側から、青、黄、赤の順に顔料をつけていく。

展示予告　受贈記念小企画展「今井兼次 不死鳥のモザイク」

2019年9月14日（土）～2020年1月13日（月・祝）

アントニオ・ガウディを紹介したことで知られる建築家・今井兼次。2018年度、当ミュージアムは今井のモザイク作品「糸車の幻想」の一部「織女星（おりひめ）」を受贈。これを記念し、作品受贈にまつわる経緯を中心に、ほかのモザイク作品や建築作品を通して、その魅力を伝える。

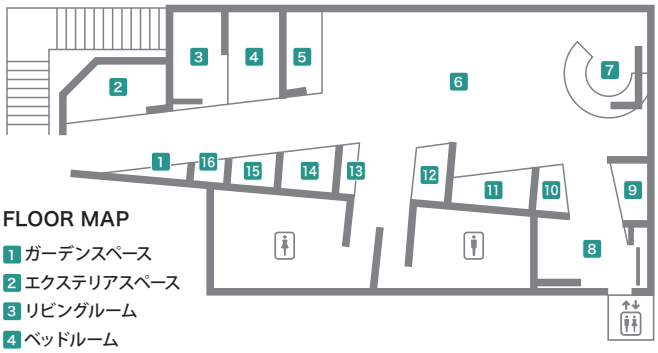


大阪・旧本町ビルディング「糸車の幻想」部分（「織女星」）画像提供：（株）竹中工務店

多治見市モザイクタイルミュージアム

2階展示室リニューアル 16のシーンに合わせたタイル使いを提案

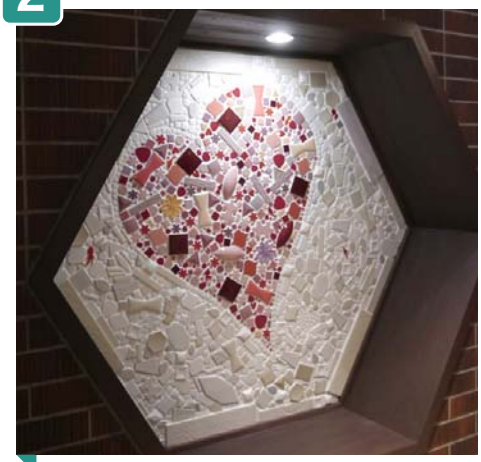
今年3月末、モザイクタイルミュージアムでは、2階の展示室をリニューアル。4人のインテリアコーディネーターがタイルを用いて16のシーンを演出、多彩なタイル使いを提案する。10シーンをピックアップして紹介。



FLOOR MAP

1 ガーデンスペース
2 エクステリアスペース
3 リビングルーム
4 ベッドルーム
5 ジャパネスクルーム
6 コミュニケーションスペース
7 コンシェルジュカウンター
8 タイルアートスペース
9 ガールズルーム
10 ボーイズルーム
11 ホビールーム
12 シャワールーム
13 ペットルーム
14 ドレッシングルーム
15 ミニキッチンスペース
16 ハンドウォッシュスペース

2 エクステリアスペース

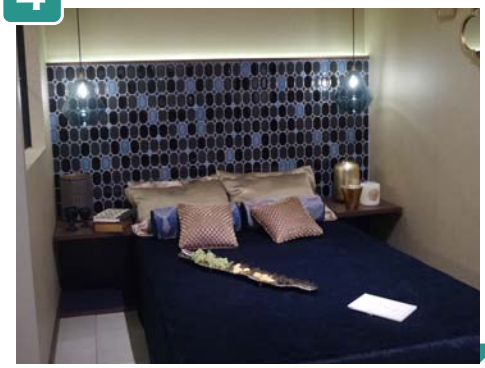


同系色の様々な形のタイルを使ったモザイク作品。美濃焼タイル女子会が作成。

3 リビングルーム

壁に使ったナチュラルカラーのタイルと、鏡を用いた照明が高級感を演出。土間の床をイメージし、リビングの床の一部にもタイルを使用。フローリングとタイルが調和することをPR。

4 ベッドルーム

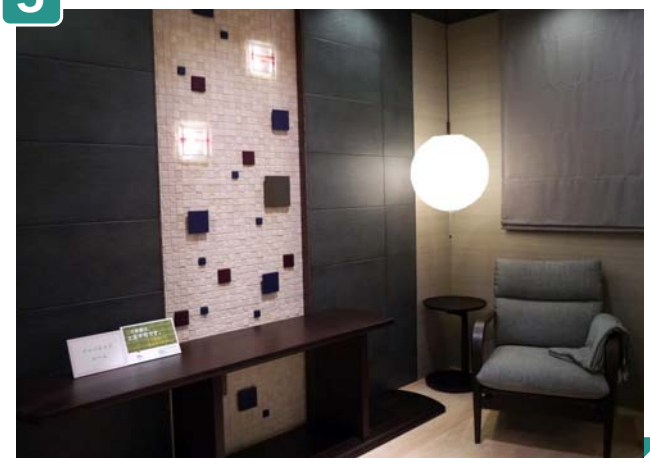


ヘッドボードに、レトロな雰囲気の八角形のタイルを使用。ベッドカバーの色と深い青色で統一し、鏡などの小物と合わせ、エキゾチックな雰囲気に演出している。

9 ガールズルーム

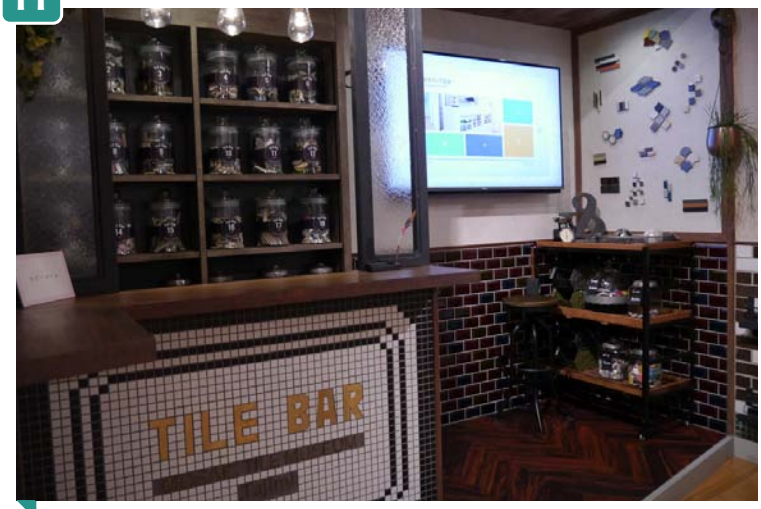
グレーを基調にし、少女だけでなく大人の女性にも合う落ち着いた印象に。左手壁は、六角形タイルを使用し、花をモチーフにデザイン。正面壁には、大小四つ並んだ丸型の間接照明とタイルを組み合わせたタイルアートを設置。

5 ジャパネスクルーム



「伝統と革新」をテーマとし、現代の生活空間に、伝統をモダンなニュアンスで導入。調湿・消臭タイルに抗菌作用のある漆パネルを合わせ、床の間的な存在感のある壁を提案。岐阜県産コラボブースとして、美濃和紙の照明、東濃ひのきの床、飛騨産業の家具を採用。

11 ホビールーム



「タイルクラフト好きが路面店を開店!!」のコンセプトの元、クラフトからインテリアまで、タイルを選べる TILE BAR を演出。サブウェイタイルや六角形のタイルを用いて、流行のブルックリンスタイルを表現している。

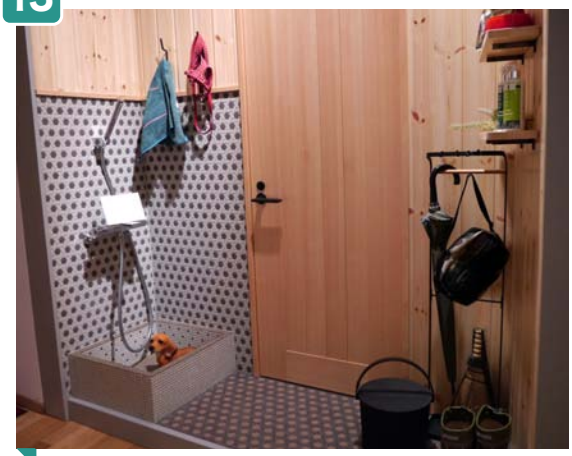
12 シャワールーム

ブラック&ホワイトの三角形のタイルを用いてモダンな柄を表現。大胆な柄は色を統一させ、調和のとれた印象に。都会的な空間を演出する一方、木目の素材で温かみをプラスしている。

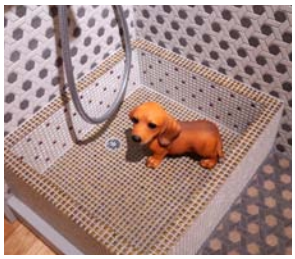
14 ドレッシングルーム

「民泊の洗面ユーティリティ」をコンセプトとし、来客者向けのおもてなしドレッシングルーム（化粧室）を演出。近年流行のスタイル「シャビーシック」を取り入れ、使い古された感じがありつつ、上品で優雅、味のある空間に。

13 ペットルーム



無垢の木材を用いた壁および勝手口扉を設えた本物志向の家を想定。土間のタイルは壁の質感に合わせて、釉薬を使わず素材感を生かしたものを使用。ペット専用の洗い場は、タイル仕上げならどんな大きさでも対応できる。



15 ミニキッチンスペース

北欧モダンスタイルの特徴のホワイトとブラック、スモーキーカラーを使用。台形タイルがリズム感を生み出している。

毎週土曜日には
『『タイル』なんでも相談会』を**開催。**

ブースをデザインした
3人のインテリアデザイナーが
タイルの使い方について相談にのっている。
（要予約、参加費無料）

トピックス

「ルート・ブリュック 蝶の軌跡展」全国巡回中
タイルで描いた自然の情景

©Hayato Wakabayashi
2階の展示風景。

東京ステーションギャラリーでの会期を好評のうちに終え、9月からは伊丹市美術館、来年は岐阜県現代陶芸美術館を巡回する「ルート・ブリュック 蝶の軌跡展」。東京での展示風景と朝の観賞会の様子を紹介する。

朝の鑑賞会は、開館前の時間に、担当学芸員の解説のもと作品を鑑賞する企画。展示の導入部では、たくさんのタイルを茶箱の上に並べた作品に迎えられる。これはインスタレーション作家、そしてブリュックの長女であるマーリア・ヴィルカラの作品。ブリュックが制作したタイルを制作年代順に組み合わせており、その変遷が見てとれる。

「日本ではあまり知られていませんが、ルート・ブリュックは、フィンランドを代表する作家で、ヘルシンキにたくさん作品を残しています」と学芸員の成相肇さん。展示は第1章〜5章で構成。3階での第1章〜2章ではアラビア製陶所で絵付けを担当していた初期（1940年代）の作品から、1950年代頃の鋳込み成形を用いた作品を紹介。「技術に対する探求心が強く、様々な新しい製法や技術を試行しました」。深みのある独特の色合いはその探求心の賜物であると知る。

2階の展示フロアは照明を落とし、雰囲気が一転。冒頭で蝶の研究者であった父親の他界後に制作した蝶をモチーフとしたシリーズを紹介。「蝶」は展示のキーワードでもある。「蝶が変態するように、作品が変貌するのを見ていただきたい」。1960年代からは具体的なモチーフが消え、作品が抽象化。ピースを組み合わせたり、組み換えたりと建築的な要素が取り入れられた。後期の作品では、ピースがより小さくなるとともに、色も少なくなり、凹凸によって光と影を表現。形も様々な、膨大な量のタイルが緻密に配置された作品は、圧倒的な存在感がある。作品のモチーフも自然といった、より大きなものへと変化していく。

タイルを用いたことは様々な意味合いをもつが、建物の壁画のような大きな作品の制作も可能としたことのがその一つ。「蝶」のような変貌を遂げたブリュックの作品を見届けに、ヘルシンキを訪れたくなった。

＊東京ステーションギャラリーでは、8月31日（土）〜10月20日（日）に「没後90年記念 岸田劉生展」を開催。

マーリア・ヴィルカラ「心のモザイク—ルート・ブリュック、旅のかけら」

作品の外側にも注意を払い、側面にも線を描いた。独特の風合いは、酸化金属を用いることによる。

©Hayato Wakabayashi
タイルを用いた作品。右：「水辺の摩天楼」、左：「木」。

トピックス

ものづくり・匠の技の祭典2019開催

タイルの楽しさと可能性を伝える

7月25日（木）～27日（土）、五反田TOC展示会場（東京都品川区・最寄りは五反田駅）にて、第4回目となる「ものづくり・匠の技の祭典」（主催：東京都）が開催された。

東京都フラワー装飾技能士会による江戸城のフラワーアート。5000本もの花を使用。

今回の会場は、五反田TOC展示会場。これまでの東京国際フォーラム（有楽町駅すぐ）とは、立地条件（駅から送迎バス）が異なり、集客が懸念されていたが、取材に訪れた土曜日は、多くの人たちでにぎわっていた。

会場では「衣」「食」「住」の様々なものづくりの伝統を受け継ぐ約70の団体がブースを設置。展示や実演とともに、体験プログラムが充実しているのが魅力。

「住エリア」では今年も東京都タイル技能士会が出展、モザイクコースターの制作体験を実施し（参加費は500円）。今回も行列ができるほどの人気だった。

ブースではタイル雑貨も販売。また、タイル職人・門脇英明さんの大型のタイル作品「獅子」を展示。その迫力に多くの人が足を止めて見入っていた。

タイルが担う「革新」

テーマ展示の茶室「匠創庵」は、イベント第1回で制作されて以来、毎年展示されている。建物の周囲には水辺をイメージし、深みのある青色のタイルが施されている。

タイル部分の制作を担当し、来場者に着物姿でタイルの解説をしていた上野京子さん（（株）梅村タイル店 Tile Style深大寺）は、「今年は質問をしてくださる方が多かったですね」と印象を話す。場所柄、通りすがりというより、伝統工芸や職人技に関心があって訪れた人が多かったからではないか、と分析。「左官、建具、表具といった伝統の中に、タイルという新しいものを取り入れた設計が素晴らしい」という嬉しい感想もあったという。イベントも4年目となり、着実にその存在感を増しているようだ。

東京都タイル技能士会・金澤久雄会長によるモザイクアートの制作実演。

実演で制作された作品。

参加者のモザイクコースター完成例。

門脇英明さんの作品「獅子」（サイズ：840×1150ミリ）。大理石調床タイル（300ミリ角）を使用。曲線を多用し、躍動感かつ気品のある絵柄が特徴的。目の部分のみに御影石を使用している。動物をモチーフにした作品が多いが、現在は人物に挑戦中。

テーマ展示の茶室「匠創庵」。